

Northerner

総会員数 7,596名(2024.12.31現在)



Contents

令和7年の新春を迎えて
全国障害者スポーツ大会活動報告
受賞報告
受賞報告
第75回北海道理学療法士学術大会を終えて
INTERVIEW 理学療法士の職域拡大に向けた新たな分野の紹介シリーズ第11弾
第76回北海道理学療法士学術大会のお知らせ
求人募集広告申込要項

Northerner241号「お詫びと訂正」
事務局からのお知らせ
食べる・たいせつフェスティバル2024 in 札幌
～車椅子体験会開催報告～
新年交代会インタビュー
広報部コラム
賛助会員・協賛企業一覧／原稿締切

令和7年の新春を迎えて



会長 柿澤 雅史

新年あけましておめでとうございます。公益社団法人北海道理学療法士会 会長の柿澤雅史です。皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より北海道理学療法士会の運営に対し、ご理解、ご協力を賜っておりますことに心よりお礼申し上げます。

昨年、令和6年は1月1日に石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、輪島市、志賀町、珠洲市等、多くの町で家屋の倒壊、土砂崩れ、火災、津波等の大きな被害をもたらしました。地震による直接死は228人、いわゆる災害関連死は241人と死者数は平成以降の自然災害では、東日本大震災、阪神淡路大震災に次ぐ多さになりました。本会からも多くの会員が発災直後より、北海道 JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会の北海道支部)のメンバーとして派遣され、ロジスティックや避難所での動作指導、仮設住宅の家屋調査など様々な活動を行いました。活動いただいた会員からは、平時から地域の行政、各団体や施設、業者との関係性を築いておくこと、研修会に参加し、災害支援の知識、技術、地域の防災対策などについて学んでおくことの重要性が聞かれました。士会、支部においても、災害支援のための研修会を開催していますので、多くの方に受講いただきたいと思います。

また、7月、8月には、パリオリンピックが開催され、日本は海外での夏季オリンピックでは過去最多となる45個のメダルを獲得しました。陸上女子やり投げでは、北海道出身の北口榛花選手がマラソン以外の陸上種目では女子で初めての金メダルを取りました。9月にはドジャースの大谷翔平選手がメジャー史上初の「50本塁打、50盗塁」を達成し、更にはナショナルリーグの本塁打王、打点王、MVPにも選出される大活躍をし、チームもワールドシリーズ制覇を果たしました。スポーツ界での選手たちの活躍は、本人の能力、日々の努力はもちろんのこと、それを裏で支える様々な人たちの力で成り立っています。その中には私たち理学療法士も含まれています。本会の令和6年度事業計画の重点課題として、「スポーツ支援の活動範囲の拡大」を挙げていましたが、更に多くの会員がバラスポーツも含め、様々な競技を支える力になれるよう、引き続き、スポーツ関連の講習会開催やスタッフ派遣事業を行ってまいります。

現在の生涯学習システムが始まり、まもなく3年になります。開始時に登録理学療法士となった方々の最初の更新に必要なポイント取得の期限は2026年12月31日になっており、残り2年をきりました。早期に協会マイページの履修管理から、ご自身のポイント状況をご確認下さい。50ポイントを取得し、更新時研修受講の準備を進め、確実に更新して下さい。

2025年は、団塊の世代の方々全てが後期高齢者となる地域包括ケアシステムの完成年とされてきました。本会でも、これまで地域包括ケア推進部において、介護予防推進リーダー導入研修会や地域ケア会議リーダー導入研修会、中堅・管理者を対象とした地域包括ケア研修会等を開催してきました。また、北海道リハビリテーション専門職協会(HARP)を通し、市町村の介護予防事業や地域ケア会議に多くの会員が参加しています。ただ、道の調査によると道内の約25%の市町村では、高齢者に対する自立支援・重度化防止の取組の推進を目指した地域リハビリテーション活動支援事業を実施しておらず、その理由として、リハ専門職の人材不足や関係団体・機関との連携体制がないことを挙げています。このことは、私たちの地域住民への啓発活動やネットワーク構築がまだまだ十分でないことを示しています。これまで、理学療法士の職域維持・拡大などのためには、行政や政治との関わりが欠かせないことを伝えてまいりました。様々な場で私たちの政策を訴え、実現していくことは、広く道民の医療・保健・福祉・介護に貢献していくことに繋がります。今年は7月に参議院選挙が予定されています。政治にも関心を持ち、私たちの声を届けてくれる人と共に政策を実現していきましょう。

この令和7年が皆様にとりまして良い年になりますことを心から祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第23回全国障害者スポーツ大会SAGA2024 トレーナー体験記

NTT東日本札幌病院 檜館 強拓



2024年10月24日から29日まで、佐賀県佐賀市で「第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024」が開催されました。各都道府県および政令都市から選手団が参加し、私は札幌選手団のトレーナーとして帯同する機会をいただきました。なお、北海道選手団には塚田先生と佐藤先生が、札幌選手団には私と安倍先生がそれぞれサポートにあたりました。札幌選手団としてトレーナーが帯同するのは初めての試みであり、出発当初はアウェーのような感覚もありましたが、役員や市職員、コーチ、そして選手の皆さんが温かく迎えてくださり、次第に信頼関係が深まっていきました。初日から多岐にわたるケ

ースに対応させていただきました。札幌選手団の約90名の選手の中で、特に陸上競技と水泳競技に関わり、知的障害の選手が大多数を占める中で、脳性麻痺や片麻痺を持つパラアスリートとも関わることができました。サポートした選手の症状は、大腿四頭筋やハムストリングの肉ばなれ、鼠径部症候群、上腕二頭筋腱炎など、多岐にわたりました。大会前日の公開練習では、コーチと連携しながら選手の動作を映像で確認しディスカッションする機会もあり、ケ



だけでなくコンディショニングにも関わることができました。その結果、選手の皆さんの多くがメダルを獲得するという成果に貢献でき、また、選手とコーチ、そして役員の皆さんとの橋渡し役としても役立てたと感じています。今回の大会では、知的障害や身体障害を持つ選手に寄り添い、トレーナー業務としてバラ特有のアダプテッドな視点でアスレティック・リハビリテーションの基礎に立ち返りアプローチすることができました。競技までのプロセスを共有したことで、選手やスタッフが揃って涙する感動的な瞬間もあり、心に残る体験となりました。

全国障害者スポーツ大会 知的バスケ女子札幌選手団 トレーナー活動

羊ヶ丘病院 富田 悠平



10月26日、27日佐賀県唐津市にてSAGA2024全国障害者スポーツ大会の知的バスケットボール競技が行われました。札幌市代表とし選手8名(20~37歳)が参加し、大会前日のストレッチや大会中の急性外傷と慢性障害の対応を行い、宿泊地ではコンディショニングや怪我の対処の提案をしました。痛みの訴えが曖昧で適切な対応が難しい事もあり、時間をかけて丁寧に



聞き出していくことを心掛けました。大会参加チームの中で医学的スタッフで帯同していたのは札幌市のみでした。知的障害のスポーツ分野は全国的にみてもコメディカル支援が少ない現状の様です。知的障害のある方は予測や判断が遅れる事で危険な接触が多く、捻挫や擦過傷が多い印象です。日頃の仕事で身体的負荷が大きい場合もあり、スポーツによる影響だけでなく生活の影響からも考えて普段の練習でもサポートすることを大切にしています。今回の大会で選手達の中には大きく精神的な成長をしている方がいました。選手達がより良い状態でスポーツの機会を得て、1日も早い精神的な成長を得られるよう今後も支援していきたいです。

受賞報告

名誉会員賞を受賞して

宮本 重範

この度、柿澤会長はじめ関係役員の方々のご推薦をいただき、名誉会員賞を受賞できましたこと心より感謝申し上げます。約10年半の北米在住の後、札幌医科大学衛生短期大学部開設のために、昭和57年8月に札幌に赴任いたしました。全く知人のいない北海道の地で、32年間に渡り充実した日々を過ごすことが出来たことは、当時の会長の福田 修先生をはじめ理事の先生方のご指導とご支援のお陰であると深く感謝いたしております。

北海道大学と札幌医科大学に短期大学部が開学した当時の道内の会員数は112名で、両校とも先ずは学生教育に力を入れて道内の医療機関に卒業生を送り出すことが急務でした。ただ、両校合わせても40名の定員で、供給が追いつかない状態が続きましたが、平成7～8年に千歳市、恵庭市、札幌市、旭川市に専門学校が開学し、定数が160名と一気に増えたので、その5年後には会員数も1,000名を超え、道内のニーズに答え得るようになりました。

その間、「運動療法Ⅰ」と「運動療法Ⅱ」としてスタートした主要な理学療法科目は昭和63年の新カリキュラムにより骨関節、中枢神経、発達障害、内部障害と専門領域に分化し、主な就職先も総合病院、脳神経外科病院だけでなく整形外科系病院等の充足も進みました。また、当士会は会員の臨床技術の向上を図ると同時に逸早い大学院の開設で研究志向を高めることが出来ました。

諸先輩の築いた理学療法が今後、どのように進化するか大いに期待いたします。



社会分野奨励賞を受賞して

株式会社SHARE スマートライフreha 渡邊 匠

このたび、社会分野奨励賞という名誉ある賞を賜り、大変嬉しく思います。この賞は、私一人の力ではなく、日々の活動を支えてくださった多くの方々のおかげであり、心から感謝申し上げます。

これまで理学療法士として、地域社会における健康づくりやリハビリテーションの普及に携わる中で、医療機関や自治体、教育機関の皆さまからのご助言やご協力が、私の活動を支える大きな力となっていることを実感してまいりました。この場をお借りして、改めて感謝の意を表するとともに、SHAREのスタッフや家族の支えにも深く感謝申し上げます。病院を退職した後、「理学療法士としてどのように社会に貢献できるのか」「支えるべき方々のために何ができるのか」を考えながら、日々活動してまいりました。その中で、多くの方々から支えをいただけたことが、今

の私を形づくっていると改めて感じております。この受賞は、私にとって大きな励みであると同時に、これからの責任をより一層自覚する機会ともなりました。

これからも、理学療法士として社会に必要とされる存在であり続けるべく、一歩ずつ前に進んでいきたいと思っております。一人でも多くの方が地域で充実した日々を送れるよう、精一杯取り組んでまいります。

最後に、このたびの受賞に対し、改めて心より御礼申し上げます。今後ともご指導ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



受賞報告

「厚生労働省老健局長 優良賞」を受賞して

社会福祉法人さつき会 フィットネス倶楽部コレカラ 大河原 和也

上川郡鷹栖町にある社会福祉法人さつき会は、平成 29 年に町と共同でシニア向け運動施設「フィットネス倶楽部コレカラ」を開設しました。町の一般介護予防事業として運営し、理学療法士が 1 名常駐、「住民参加型介護予防」をコンセプトに、地域住民が主体的に健康づくりに取り組めるよう支援しています。

この度、コレカラの取り組みが「第 13 回健康寿命をのばそう！アワード（介護予防・高齢者生活支援分野）」にて「厚生労働省老健局長 優良賞」を受賞しました。同アワードは介護予防や高齢者生活支援の分野で優れた取り組みを行っている団体を表彰するものです。コレカラでは、住民同士が助け合い、共に健康づくりに取り組めるよう、「あったかすりハビリ体操指導士」や「コレカラサポーター」といった住民ボランティアを養成し、活動を支援してきました。これらの活動が、地域住民の主体的な活動に大きく貢献していると高く評価されました。



今回の受賞は、コレカラに関わる全ての方々、特に住民ボランティアやコレカラをご利用いただいている皆様、そして、事業運営にご協力いただいている鷹栖町健康福祉課の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。今後も地域住民や行政と協力し、より多くの町民が主体的に介護予防に取り組む、いつまでも人とのつながりを大切にできるまちづくりに貢献できるよう邁進して参ります。

第75回北海道理学療法士学術大会を終えて

大会長 森田 学

令和 5 年 11 月 30 日から 12 月 1 日に第 75 回北海道理学療法士学術大会を苫小牧市民会館にて開催しました。本大会では当日参加登録の再開、抄録のデジタル化、デジタルポスターセッションなど新たな取り組みを行いました。一方では大会側の不手際もあり、抄録の送信や PW 配布などが遅れ、参加者、会員には非常にご心配をおかけしましたことお詫び申し上げます。大会の事前登録者は 700 名、アーカイブ配信は 300 名強の方に視聴いただき、現地には当日参加を含めて 600 名を超える方々にご来場いただき、御礼申し上げます。また、市民公開講座は大会前日の 11 月 29 日市民活動センターで実施し、40 名の市民の方が参加されました。シルバーリハビリ体操について全国の状況や苫小牧での課や取り組みなどを聞いていただき、市や近隣地域での普及や実践などに活かされると参加者から非常に良いご意見をいただきました。本大会ではテーマを「継承と進化」とし、理学療法としての過去の知識や技術を次の世代に伝え、私たちが積み重ねてきた経験や教訓を大切に、新しい知識や技術を取り入れ、より良いサービスを提供するための変革となる機会となるよう準備委員一同で準備を進めて参りました。基調講演として日本理学療法士協会会長の斉藤秀之氏、特別企画として参議院議員田中昌史氏、特別講演Ⅰにて北陸大学健康未来社会実装センター センター長 / 医療保健学部理学療法学科の大畑光司氏、特別講演Ⅱにてライフ・オステオパシー・センター / 北海道理学療法士会石狩支部理事である青山 花奈恵氏に講演いただきました。また、支部企画Ⅰでのシルバーリハビリ事業、支部企画Ⅱではハンズオンセミナーにて開催し、自主企画も例年同様受け、9 団体にご協力いただきました。大会準備委員一同、大会に関わっていただいた多くの方々のご協力・ご支援があり成功裏に開催することができました、御礼申し上げます。



生活支援コーディネーターとして 活躍している理学療法士

職域事業部の理学療法士の職域拡大に向けた啓発・提案事業では、先駆的に行っている分野等で活躍されている理学療法士へインタビューを行い、会員の皆様に紹介することで興味を持つ、あるいはすでに興味をもっている人が一歩を踏み出すきっかけを作ること、そして、今後その分野での理学療法士の未来・可能性が広がるように活動しています。

今回は生活支援コーディネーターとしてご活躍されている理学療法士、杉田慎之介さんについて紹介します！



当別町社会福祉協議会

杉田 慎之介さん

理学療法士を 目指したきっかけ

母が理学療法士であったため、進路を考えていた時に理学療法士の話を知ることがありました。そこで興味を持ったのがきっかけです。自分自身学生時代はサッカーをやっており、リハビリの経験もあったため、もともと興味もあり進学しました。

この領域に進むことになった経緯

卒業後は、札幌市内の病院で神経内科病棟と回復期病棟の臨床を経験しました。そこで、患者様から「体が元気になっても楽しみがない」と言われたことがあります。そこから病院で身体が良くなった先のことを意識するようになりました。病院勤務の時から地域での介護予防活動に参加しました。そのような経緯もあり、本格的に地域での高齢者の生活実態についてより深く学びたいと考え大学院に進学しました。大学院では地域在住高齢者の生活空間について研究

しました。研究する中で、入院前、入院後の活動・参加の重要性を実感し、自分も理学療法士として寄与できないかと考えるようになりました。そんな折に、大学院のある当別町の社会福祉協議会で地域づくりを担う生活支援コーディネーターを募集していることを指導教員から教えていただきました。自分の目的とも合致していたため、大学院修了時に応募し社会福祉協議会で働くこととなりました。

実際の活動内容

社会福祉協議会では主に生活支援コーディネーターとして活動し

ています。生活支援コーディネーターは、介護保険法の地域支援事業に位置付けられ、高齢者の社会参加と生活支援の充実・強化を目標に活動しています。日々の業務内容は、地域支援ニーズを把握し、関係機関と情報共有をしながら集いの場やサロンといった新たな社会資源を開発することや、課題解決に向けた協議の場を開催することです。最近では、住民の方と通いの場に男性参加者を増やすための協議を行い、麻雀サロンはどうかと意見が出ました。そこで地域住民の方に麻雀で使用する道具を集めてもらい、地域包括支援センターには運動教室等に消極的な男



性がないかと相談をしました。結果的に、麻雀の道具は3つ集まり、参加者も外出機会が少なかった男性が来てくれるなど地域住民や関係機関の協力で健康麻雀サロンを開始することができました。口コミで次第に参加者も増え、参加者同士の交流にも繋がりました。こういった活動が継続的、かつ、できるだけ住民の方の主体性を活かした形になる事を意識して日々支援しています。また、地域住民や関係機関から情報収集を行い、地域資源 MAP を作成しています。作成後は地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、民生児童委員など高齢者支援に関わる方々に配布しています。

活動の中での課題

1つ目の課題は、ファシリテーション技術です。生活支援コーディネーターは住民の自助・互助意識を活かした事業のため、住民の主体性を活かした形で支援をしていくことが重要になります。しかし、住民の方からすると「～してほしい」といった声が多いのが現状です。そのため、会議の進め方やコミュニケーションを工夫していくことが重要です。いわゆるファシリテーターとしての技術がまだ不足していると感じてはいますが、できるだけ意見が出やすいよう参加人数に合わせて会議の場の広さを選定したり、課題について深く掘り下げていけるような会議のテーマを提示するといった事を意識しています。

2つ目は、生活支援コーディネーターの認知度です。2年半ほど地域のサロン等に参加していると私個人は覚えてもらえるようになりましたが、生活支援コーディネーターとしてどんなことができるのか、住民や関係機関の理解が乏しいのが現状です。これは生活支援体制

整備事業が始まって約10年と歴史が浅いことも背景にあると思います。研修会等で周知をすることや実績報告の機会などで説明するようにしています。地域の様々な方々とコミュニケーションをとる機会を自ら作り、説明していくことを今後も継続していきたいと考えています。

この領域で理学療法士として関わる意義・やりがい

地域のサロンに行くと、運動や身体的不調（腰痛など）について悩みを抱えている方が多いと感じています。初めて参加するサロンでは、理学療法士としての専門性を活かして入っていくと受け入れられやすい印象があります。通いの場におけるニーズのアンケートを実施した際も、体操する機会がほしいといった声が多く聞かれ、地域におけるリハ専門職のニーズの高さを実感しました。

また、様々なサロンを支援していく中で、地域で生活している高齢者の現状を把握でき、活動・参加レベルの重要性をより理解することができました。入院したとしても退院後に楽しい事がある地域づくりをすることは、とてもやりがいがあると感じています。これは病院で勤務していた経験があったからこそ感じる事だと考えています。これらは、福祉学部を卒業した方々とは違う視点であると

意見交換などを通じて実感しています。もちろん、福祉専門職の強みもありますが、理学療法士としての介護予防の視点は十分に活かせる仕事だと思っています。

今後について

少しずつ地域の方に生活支援コーディネーターの役割について認知していただけるようになったので、様々な方の協力を得ながら当別町の地域づくりを推進していきたいと思っています。具体的には入院や病気になってもそれぞれのやりたいことや楽しみを創出、マッチングできるよう活動していきたいと思っています。また、理学療法士としての介護予防の視点も踏まえた地域づくりを進めていけるようにしていきたいです。これらを実践・発信もしていきながら、理学療法士の職域拡大に貢献できればと思います。

会員へのメッセージ

地域でのリハビリ専門職のニーズは高いと感じています。地域の社会資源の情報などを知りたい場合は、社会福祉協議会や生活支援コーディネーターに問い合わせをすると教えてくれますので、ぜひ活用してほしいと考えます。また、私自身も地域づくりの活動を通じて士会に貢献できるように取り組んでいきたいと思っています。



第76回北海道理学療法士学会 のお知らせ

開催日 / 2025年(令和7年)12月13日(土)~12月14日(日)

テーマ / 一体性

開催方法 / 対面[アーカイブ配信は検討中]

会場 / とかちプラザ(帯広市西4条南13丁目1)

担当支部 / 十勝支部・釧根支部

大会長 / 林 達也(十勝リハビリテーションセンター)

準備委員長 / 中藪 幸広(刀圭会 協立病院)

座長・査読委員募集 / 2025年2月中旬開始(予定)

演題募集 / 2025年4月中旬~2025年5月中旬(予定)

今回は初の複数支部(十勝・釧根)担当での開催となります。
症例発表や症例研究など症例を中心とした演題も大歓迎です。
「帯広に来て良かった!」と思われるような大会にしたいと思います。
たくさんのご参加、お待ちしております!

公益社団法人北海道理学療法士会 求人募集広告申込要項

掲載料金	●A4 1ページ 白黒印刷: 30,000円+税 ●A4 1/2ページ 白黒印刷: 15,000円+税
掲載箇所	1.北海道理学療法士会 会報誌「Northerner」(発行部数2,100部) 2.公益社団法人北海道理学療法士会ホームページ(会員メニュー>求人広告)
発刊時期	2・6・9・11月 ※ホームページへの掲載は、通常2~3か月間となり、期間が過ぎた場合は自動的に削除させていただきますので、予めご了承ください。なお、掲載が不要となった場合は、ご連絡ください。
お申込み方法	本会ホームページの各種申請書ダウンロードより「求人広告申込要項」を取得して、記載例を参考に作成し、事務局までお申してください。お申込を受信しましたら担当者より受領及び校正の連絡を致しますが、連絡が無い場合には事務局(TEL:011-213-0301)までお問い合わせください。なお、校正は原則1回とさせていただきます。 ※原則として、フォントはMSゴシック体とし、指定ロゴ・写真・画像の追加、お取り扱いは致しておりませんので、文字のみで作成をお願い致します。 ※本会の都合により掲載できない場合がありますので、予めご了承ください。
申込締切	発刊前月の1日 締切後は次号ご掲載となります。
お支払い方法	掲載された会報誌とともに、ご請求書を同封致します。 お手元に届き次第、お支払いいただきたくお願い申し上げます。
お申込み・お問い合わせ先	公益社団法人北海道理学療法士会 事務局 〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目1-4 北苑ビル2階 TEL:011-213-0301 FAX:011-213-0302 E-mail:office@pt-hokkaido.jp

北海道理学療法士会ニュースNortherner241号のお詫びと訂正について

北海道理学療法士会 社会局長 杉原 俊一

2024年11月発刊のNortherner241号P.05「登録理学療法士更新」およびP.08「事務局からのお知らせ/4その他/●登録理学療法士更新について」について、お詫びと訂正を申し上げます。

「2022年4月1日に旧新人教育プログラム修了者は登録理学療法士となった」との記載がありましたが、正しくは「2022年4月1日に2012年度以前の入会者は旧新人教育プログラム修了者で登録理学療法士となった」となります。

また、2013年以降に入会された方については、入会年度や旧制度での履修状況によって、新生涯学習制度移行後での必要な履修内容が変わります。なお、2012年度以前に入会された方で旧新人教育プログラム修了者は、既に登録理学療法士であるため、2026年12月31日までに50ポイントを取得し、更新時研修を受講いただく必要がありますので、ポイントの取得状況を協会マイページの生涯学習管理内、履修状況確認より各自でご確認のうえ更新をお願いいたします。

2013年度以降に入会された方については、協会マイページの生涯学習管理内の履修状況確認より現在の履修状況を確認のうえ、必要な単位取得を進めていただきますようお願いいたします。

この度は、お知らせした内容に不備があり大変申し訳ございませんでした。謹んでお詫び申し上げます。

▶▶▶ 事務局からのお知らせ ◀◀◀

1 異動・住所変更 改姓・転出入 等

- 異動(休退会を含む)が生じ次第、速やかに協会マイページより、変更手続きをお願い致します。
※マイページID、PW 紛失の場合は、日本理学療法士協会 TEL: 03-6804-1421 へ申請願います。
- ご結婚等で改姓をされた際の免許の書き換えは、お住まいの地区の保健所又は保健センターでの手続きとなります。

2 年会費納入 年会費領収書

- 【会費納入について】**
 - 年度開始前の3月末までに納入が無かった場合、4月より会員権利全面停止となり、6月末までに納入がなかった場合、会員資格喪失により退会となります。(退会の場合、生涯学習履歴は全て無効となり、復会しても履修履歴は戻りません。)
 - 納入手続きは、納入漏れや送金手数料が不要のクレジットカードを推奨致します。詳細については、日本理学療法士協会へお問い合わせ下さい。(TEL:03-6804-1421)
- 【年会費領収書について】**
 - 日本理学療法士協会マイページより領収書の取得ができます。
 - 出力方法:マイページログイン→お支払い管理→お支払い履歴・領収書発行



日本理学療法士協会
HP

3 慶弔関連

- 慶事:会員の結婚(ご披露宴に祝電をお届け致します。)
 - ①依頼者氏名・会員番号 ②本人氏名(女性会員の結婚の場合は旧姓)・本人会員番号 ③日時 ④会場・住所・TEL
 - 上記4点を記載し、事務局までメールにてご連絡下さい。office@pt-hokkaido.jp
- 弔事:会員本人、配偶者及び一親等までのご家族についてのご不幸(弔意を表します。)
 - ①依頼者氏名・会員番号 ③日時(お通夜・告別式)
 - ②亡くなられた方の氏名 ④会場・住所・TEL
 - 1:会員本人の場合 ⑤喪主氏名・続柄
・会員氏名 ○○ ○○、会員番号 ○○○○○○○○
(亡くなられた方との続柄。妻・長男等)
 - 2:会員の配偶者及び一親等までのご家族の場合 ⑥会員周知対応可否
・亡くなられた方の氏名 ○○ ○○、続柄(実父・義母 等)
・会員氏名 ○○ ○○、会員番号 ○○○○○○○○

4 その他

- 郵送先について
- 登録理学療法士更新について
 - 登録理学療法士制度が開始となった2022年4月1日に2012年度以前の入会者は旧新人教育プログラム修了者で登録理学療法士となりましたが、2026年12月31日までに50ポイントを取得し、更新時研修を受講いただく必要があります。
 - ポイントの取得状況については、協会マイページの生涯学習管理内、履修状況確認より各自でご確認ください。
 - また、日本理学療法士協会HP「登録理学療法士制度について」ページから制度をご確認いただくことができます。
 - ※カリキュラムコードが重複した講習会を受講した場合、先に受講(取得)したポイントが登録され、後に受講した分のポイントは加算および上書きはされません。
 - ※認定・専門理学療法士取得済の方で、登録理学療法士を更新しなかった場合は、認定・専門理学療法士も失効しますのでご注意ください。

登録理学療法士制度について



生涯学習制度の問い合わせフォーム



- 日本理学療法士協会 会員マイページ専用アプリについて
マイページにオートログインし、各メニューが利用できます。
協会、士会からのお知らせをプッシュ通知で受信することもできます。
ぜひインストールしてご利用ください。

会員マイページ専用アプリについて



食べる・たいせつフェスティバル2024 in 札幌

～車椅子体験会開催報告～

株式会社Sirius リハビリベース☆こもれび

佐藤 優樹



令和6年10月23日に大和ハウスプレミストームで生活共同組合コープさっぽろ主催の「食べる・たいせつフェスティバル2024 in 札幌」が開催され、北海道保健福祉部福祉局地域福祉課、コープくらしの助け合いの会の方々と小学生向け車椅子体験会を行いました。食育が中心のイベントではありますが、環境や暮らしなど様々なブースがあり、私は北海道が行っている障がい者等用駐車スペースの適正利用啓発キャンペーンのブース内で車椅子の操作方法や注意点などの説明を通して、「北海道福祉のまちづくり条例」に基づいた普及啓発のお手伝いをしてきました。



予定人数の34名の小学生が参加し、車椅子を悩みながら操作したり、説明を真剣に聞いてくださいました。参加者のみならず予約をしていなかったお子様や保護者の方も車いすに興味を示してブース前で足を止めてくださり、たくさんの方に障害者マークや車椅子について知ってもらえる機会になったと思います。

車椅子のみならず、理学療法士についても簡単に質問してみましたが、知らないと答えた参加者がほとんどでした。今後も様々な場で専門性を発揮して啓発していく事が理学療法士の更なる社会参加に繋がるのではないかと思います。

北海道保健福祉部福祉局地域福祉課、コープくらしの助け合いの会の皆様に感謝申し上げます。

令和7年 新年交礼会 インタビュー

新年交礼会が5年ぶりに開催されました。新年交礼会は関係団体が一堂に会して新年の挨拶を交わし各組織が互いに親交を深める場であり組織運営において重要な役割を果たしております。今回は来賓の方々に今年の目標や当会へ期待することなどをインタビューしましたので報告いたします。



北海道看護協会 常務理事 山本 純子様

Q. 北海道看護協会の今年の目標

A. 地域包括ケアシステムの一環として、他職種との連携を強化し、それぞれの地域の中のネットワークを作って、住民の健康と生活を守る活動を進めていきたいです。

Q. 当会に期待していること

A. 高齢化が進む中で、生活支援の重要性が強調されています。そのなかで、理学療法士が優しさと共に活動面で住民を支え、体を動かし理学療法士独自の力を発揮して地域にとって重要な役割を果たすことを期待しています。



北海道介護支援専門員協会 副会長 木元 国友様

Q. 北海道介護支援専門員協会の今年の目標

A. 介護保険の改正に向けて、介護職員の不足や地域の実情に対応するために、日本介護支援専門員協会と連携し、地域の声を届ける活動を進めることと、ケアマネージャーの質向上にも力を入れており、法定研修の必要性を議論しつつ、自立した生活を支援するための質の担保が重要だと考えています。さらに、北海道内での介護支援専門員の組織率が低いので1000人を目指して努力しています。

Q. 当会に期待していること

A. 理学療法士はデイサービスや訪問リハ、訪問看護などで、介護職やケアマネージャーとは異なる視点や知識を持つため、利用者の自立支援のために重要な役割を果たしています。今後も、チームの一員として共同で実践し、連携を深め、ネットワークを強化していくことを期待しています。

インタビューの続きは Instagram で！北海道歯科技工士会 常務理事の若林様、函館市医師会看護・リハビリテーション学院 副学院長の石田様のインタビューがご覧になれます。Instagram は最終ページの QR コードから



紹介します! リーフレットのこと

広報部 石井 丈也



私たち広報部が担っている会員及び道民の皆様に対する広報活動は複数あるのですが、今回は広報部が一丸となって取り組んでいるリーフレットの作成について紹介したいと思います。昨年9月発刊のNorthernerでもリーフレットに関する記事の掲載がありましたが改めて知っていただき、活用していただける機会になればと思います。

皆さんはリーフレットという物自体をご存知でしょうか？リーフレットとは1枚のみで構成された用紙を折ることによって作る印刷物のことでチラシとも呼ばれます。SNSが普及した今においても読みやすく、手に取りやすい有効な情報発信ツールであると考えられます。

広報部が作成しているリーフレットは両面カラー印刷の3つ折りが基本です。主な配布機会は理学療法週間事業や高校生向けの職場体験や各支部が主催する介護予防教室など皆さんが一般市民の方と接する時だと聞いています。

テーマによって内容の違いはありますが、大きくは解剖や簡易的な評価など知識の要素と具体的な運動指導で構成されており日本理学療法士協会や他の都府県士会から発刊されているリーフレットも参考にしながら渡す会員と受け取る一般市民を想像して、全員で知恵とアイデアを出し合って作成しています。また、既存のリーフレットで使用していた写真をイラストに変更したりレイアウトを刷新したりとその時代に合わせて修正や変更もしています。

ここからは大まかな作業工程ですが、まず既存のリーフレットの刷新や新たなテーマで作成するかを会議にて決めます。その後、情報収集をしながらレイアウト、構成、デザイン、文章、イラストなどを考え、原案を作成します。その原案を元に社会局長や局付け理事に助言をもらいながらイラスト業者との打ち合わせで全体の雰囲気や検討事項、お願いしたい点を伝えて仮版を作成してもらいます。仮版を再び広報部が中心にチェックして細かな修正を重ねて最終的に印刷業者へ依頼するのが工程となります。イラスト業者から仮版をもらう時が一気にプロっぽくなるのでやりがいを感じる瞬間です。

個人的に苦勞するのは最初のレイアウトや構成などの大枠部分と運動指導写真をイラストに落とし込む作業だと思っています。限られたスペースで見やすさだけでなくこちらの意図まで伝えるにはイラストの向きや髪型、表情、服の色など周辺への気遣いが大切だと改めて感じます。この作業を3ヶ月ぐらいかけて協力し合いながら実践しています。

現在、作成した8テーマのリーフレットは以下になります。

- ① スタートライン～理学療法士への道（マンガ）
- ② 介護予防（マンガ）
- ③ 膝の健康を維持しましょう
- ④ 膝の健康を維持しましょう（上級編）
- ⑤ 肩の健康を維持しましょう
- ⑥ 足の健康を維持しましょう
- ⑦ 運動と栄養
- ⑧ 腰の健康維持に役立つ運動～寝ながら（仰向け）運動編～



リーフレットが必要な方がおりましたら事務局へメールで依頼することが出来ますので活用していただけると幸いです。また、新たに作成してほしいテーマや使った感想などを教えていただけると助かります。

会員の皆様にとって有益な情報発信をしたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いいたします。

正賛助会員

キーウェアソリューションズ株式会社
学校法人淳心学園 北海道千歳リハビリテーション大学
学校法人都築教育学園 札幌医療リハビリ専門学校
学校法人鶴岡学園 北海道文教大学
学校法人西野学園
学校法人日本医療大学
学校法人東日本学園 北海道医療大学
学校法人北海道科学大学 北海道科学大学
学校法人吉田学園 専門学校北海道リハビリテーション大学校
公益社団法人函館市医師会 函館市医師会看護・リハビリテーション学院

副賛助会員

一般社団法人 北海道言語聴覚士会
公益社団法人 北海道作業療法士会
株式会社竹山
株式会社特殊衣料
矢崎化工株式会社 北海道支店
特定非営利法人HPT
アビリティーズ・ケアネット株式会社 札幌営業所

協賛企業

オージー技研株式会社 札幌営業所
酒井医療株式会社 札幌営業所
株式会社日本メディックス 札幌営業所
ミナト医科学株式会社 札幌営業所
株式会社ムトウ

Northerner 原稿締切

- ◎No.243(6月発刊) 2025年5月1日(木)締切
- ◎No.244(9月発刊) 2025年8月1日(金)締切
- ◎No.245(11月発刊) 2025年10月1日(水)締切

締切後にご提出いただいた原稿は、原則次号以降のご掲載となります。
予めご了承ください。

原稿募集のお知らせ

皆様からの原稿を募集しております。
全道の会員へ報告したいこと、伝えたいことがありましたら
是非、下記アドレスまでご連絡ください。

原稿送付先：広報部 (kouhou@pt-hokkaido.jp)

なお、求人広告原稿につきましては、事務局までご連絡願います。

求人広告原稿問合せ先：事務局 (office@pt-hokkaido.jp)

広報部公式 Instagram



会員の皆様に役立つ情報をお届けいたします。
フォローよろしくお願いたします。

Northerner No.242 2025年2月1日発刊

発行／公益社団法人北海道理学療法士会

発行人／柿澤 雅史

編集人／橋本 晃広

印刷／幡本印刷株式会社

事務局／〒060-0807

札幌市北区北7条西6丁目1-4

北苑ビル2階

TEL:011-213-0301

FAX:011-213-0302

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。